

学校名 [北六番丁小学校] 氏名 [國井 美紅] No.1
 [小] 学校 [平成28] 年版 第2学年 単元名 [家のまわり・学校のまわり] P30～31
 P34のイラスト 教科・領域名 [学級活動] [45分] 生活科の「自分地図作り」につなげる学習

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>【ねらい】 家のまわりや学校のまわりで地震が起きたり、大雨や台風がきたりしたとき、どのようなことに注意したらよいか考える。(考えたことを、生活科の自分地図づくりに生かすことができる。)</p> <p>1 導入、</p> <p>1年間の生活や訓練をふり返って、以前よりも自分たちの家や学校の周りの様子が分かるようになっていきますね。これまでの学習を生かして、大きな地震や大雨などの時にも、家から学校まで自分の力で判断して安全に行動できるようにしましょう。</p> <p>2 通学路や生活の中で、地震が起きたときに危険になるところを見つけましょう。</p> <p>このイラストを見て、地震が起きたら注意することはどんなことか、どのように身を守ったら良いのかを、もう一度確認しましょう。</p> <p>(児童の主な反応)</p> <p>①自動販売機が倒れそう。ブロック塀や電信柱も倒れそう。危険な物から離れて、頭を守っている。とにかく、けがをしないことが大切。</p> <p>②帽子をかぶることは大切。ランドセルもいざというときに身を守ることに役に立つ。</p> <p>③川にいるときに地震が来たら、津波が上ってくるかも知れないので、すぐ避難する。</p> <p>④川にいるときに黒い雲が出てきたら、河原から避難する。</p> <p>3 生活科学習への意欲付け</p> <p>生活科の学習では、次のようなことを具体的に調べたり考えたりしましょう。</p> <p>①「おちてきそうなもの うごいてきそうなもの たおれてきそうなもの」は実際の通学路では、どのようなところにあるか。</p> <p>②津波が発生したとき、大雨や台風が発生したとき</p> <p>③安全なところや、身の守り方は</p> <p>自分の通学路を通りながら、地震等の災害が起きたときに危険だと思う場所や物を見つけてきましょう</p>	<p>*この内容は以前に平成27年度版を活用して、6月の地域合同防災訓練の前に指導している。今回は、平成28年度版の同じ部分のイラストが分かりやすいのでイラストのスライドを活用しての授業である。I期のまちたんけんでは、お店の探検の他に安全・防災教育との関連で地域の主な施設を見学している。</p> <p>きけんなものは？身のまもり方は？</p>  <p>○これまでの、防災や安全についての学習から、自分たちの判断力や行動力が高まっていることを認め、学習への意欲を高める。</p> <p>○提示するイラストをスライドや拡大図で提示して考えさせる。</p> <p>○児童はこれまでの学習が生かされ、積極的に発言していた。イラストが分かりやすいので、注意する点によく気付くことができた。副読本には考え方が文章で示してあるので、考える段階では、副読本全体は提示しなかった。</p> <p>○P30のイラストについては全体で討議した。P31とP33の6つのイラストについて、グループでの話し合いを取り入れ、発表し合った。エレベーターや乗り物の体験が少ない児童も、共に考えることで、具体的に想像することができるように配慮した。</p> <p>○防災教育副読本のイラストや写真をスライド化した教材作りを行った。写真やイラストをもとに考えたり、話し合ったりする活動の資料として有効である。教室内に工夫して掲示して活用している。</p>